師事する池田道夫先生より父君池田遙邨の書を頂きました。《えごとじゅんかん》と読み、遙邨の造語かと思われます。どの様な思いでこのことばを書かれたのか…と、飾る度に考えてしまいます。怠けている時はそのことで作品が悪くなる…、変に力むと窮屈な絵に…と制作姿勢が作品に反映するという様な因果応報を説いた言葉？あるいは2015 年作「白い花」は、その一年ほど前から毎日一枚、描きはじめた抽象のエスキースが契機となってできた作品。そして翌年の「双」に展開。勿論それらの制作の間にできた他の作品のこと、考えたことが影響し合い、制作が進むこと？写生・制作・鑑賞。そうしたことが私の中で循環している事？大袈裟な言い方をすれば絵を志してからは《絵事》を中心に私の人生が循環してきたとも思われてきます。

西田 眞人

京都市立芸術大学 退任記念

西田眞人展 －絵事循環－

平成２９年１２月１５日（金）～平成３０年１月８日（月・祝）

京都市立芸術大学
Kyoto City University of Arts — founded in 1880 —

@KCUA
KYOTO CITY UNIVERSITY OF ARTS ART GALLERY

〈光〉の恩寵　―西田眞人展に寄せて

京都市立芸術大学 学長　鷲田　清一

廃墟や廃屋に生い茂る雑草を描いても、棄てられる鉄屑や震災で焼け残ったアーケードや焼け落ちた瓦礫を描いても、住宅地の植え込みや秋の山肌を描いても、朝霞に包まれた神戸の街や神戸港の水面を描いても、さらに人影や仏像を描いても、そこには無数の光の粒が浮き立っている。個々の物の稜線をなぞるかのような光もあれば、一つ一つの小さな物たちの内部から射すような光もある。未明や黄昏時には横から光が射すが、たいていの光はどこかわからぬ無限遠点から届けられるという感じがする。

はじめは偏光フィルターをかけられた射影を思った。ソラリゼーションという写真の反転効果を見るような気もした。じっと見つめるうち、それが人間ではない別の存在が見ている光景に見えてきた。そこに描かれた物たちは、見る者のまなざしが現わすものではなく、向こうから射してくる光に静かに応えるかのように立ち上がっている。見られるものではなく、見えるもの、いや見させてもらっているものであるかのごとくに。

そういえば、17 世紀オランダの哲学者、スピノザのことばに「光が光と闇とを顕わす」というのがある。物は光と影をまとってようやく形をとる。見えるということは光の存在によって可能になる。西田さんは、その光に照らされた物たちを描くなかで、じつは光そのものを描こうとしたのではないか……。ふと「恩寵」ということばを思い出す。

日本画の原点に《写生》があるとはよく言われることである。西田さんの写生では、手がその「恩寵」に応えるかのように動いているように見える。神戸の大震災の直後に、後ろめたさを隠せないまま「恐るおそる」、人が活動しだす前の早朝に写生を始めた西田さんは、瓦礫の一つ一つをひたすら克明にスケッチする。ふと通りかかった被災者に励まされとき、その人の眼に焼きついたものまで代筆しようという思いが固まったのかもしれない。

が、そのさなか、「軀になった建物のフォルムに造型的な興味を覚えてしまう」自分がいたことも、西田さんは包み隠さず吐露している。

棄てられるもの、崩れたもの、人知れず生い茂るものたちに当たる無数の光の粒。溢れる光の泡。研ぎ澄まされた光の線……。古典的な墨絵や洋画から現代デザインまで、ときに現代の劇画をも支えてきたこの光の「恩寵」が、ひとりの画家のうちに集結しているというのは希有なことだとおもう。

今熊野の学生時代、京都駅との中間点、河原町塩小路角にあった柳原銀行を写生した一枚の旧い日本画を、西田さんは、退任を迎えるその年に、開館 20 周年を迎える柳原銀行記念資料館に寄贈した。 崇仁地区の人びとにとって、そしてそこへと拠点を移そうとしている京都市立芸術大学にとって、それは何にも代えがたい贈り物となった。

「黒いアーケード」1995 年　（作品左）

「赤い家」1977 年
（柳原銀行記念資料館寄贈作品）

京都市立芸術大学 退任記念　**西田眞人展 －絵事循環－**

展示作品一覧

第１章／〈光〉の恩寵

	作品名		制作年	初出展	サイズ（タテ×ヨコ）
1	夜に舞う	〈神戸ゆかりの美術館 蔵〉	1997 年	第 29 回日展	１６０.５×２２５ｃｍ
2	華燈	〈明石市立文化博物館 寄託〉	2000 年	第 32 回日展	１９４×１９４ｃｍ
3	染まる街	〈神戸ゆかりの美術館 蔵〉	2000 年	第３回ＮＥＸＴ展	１２４.５×４５３ｃｍ
4	香港三題「彩」		2002 年	第５回ＮＥＸＴ展	７１×１９２.５ｃｍ
5	香港三題「活」		2002 年	第５回ＮＥＸＴ展	７１×１９２.５ｃｍ
6	香港三題「麗」		2002 年	第５回ＮＥＸＴ展	７１×１９２.５ｃｍ

第２章／大枝沓掛の 10 年

	作品名	制作年	初出展	サイズ（タテ×ヨコ）
7	清蔭	2008 年	第 40 回日展	１９３×１９３ｃｍ
8	夢の跡	2009 年	第 41 回日展	１６５×２２０ｃｍ
9	雨後	2010 年	第 42 回日展	１９３×１９３ｃｍ
10	緑陰	2013 年	第 45 回日展	１９３×１９３ｃｍ
11	緑陰の扉	2014 年	改組新第１回日展	１６５×２２０ｃｍ
12	白い花	2015 年	改組新第２回日展	１６５×２２０ｃｍ
13	双	2016 年	改組新第３回日展	１５５×２１９ｃｍ
14	鹽竈（鹽竈神社）シリーズ「一の宮」作品　〈個人蔵〉	2016 年		１１７×５９ｃｍ
15	白山さん（白山比咩神社）シリーズ「一の宮」作品 〈個人蔵〉	2017 年		８５×１４５ｃｍ

第３章／英国の旅

	作品名	制作年	初出展	サイズ（タテ×ヨコ）
16	余映	2003 年	第 35 回日展	１６８×２１２ｃｍ
17	明ける港	2004 年	第７回ＮＥＸＴ展	１４４×３６０ｃｍ
18	径	2005 年	第 37 回日展	１６５×２２０ｃｍ
19	海潮音	2005 年	第 50 回青塔社展	７９.５×１９９ｃｍ
20	水光	2007 年	第 39 回日展	１６５×２２０ｃｍ
21	始原	2007 年	第 10 回ＮＥＸＴ展	１５０×４５０ｃｍ
22	北の都	2009 年	第 54 回青塔社展	９９×２９９ｃｍ
23	鎮魂歌	2011 年	第 56 回青塔社展	１６２×９７ｃｍ